

板野中学校 同和教育だより

MY SKY 第10号

マイ・スカイ

2001年10月16日(隔週火曜日きまぐれ)発行

p(>_<)q

発行者

編集・文責
馳吉成正士

13日、「第2回中部ブロック中学校演劇交流会」に、演劇部のみなさんと一緒に出場してきました。石井町中央公民館というところで朝9時からあったのですが、当日は朝7時に板中の体育館に集合し、一通り練習をしてからタクシーに乗り込むという念の入れようでした。

交流会のプログラムは、名西高校音楽部による3曲の合唱(「人として」「力 石」「Oh Happy Day」)からスタートし、吉野中学校「今私たちにできること」、藍住東中学校「青空」、石井中学校「直人と獅子舞」と上演され、ラストを我が板野中学校の「SEASONS II」が飾りました。どの劇も身近な問題を取りあげていました。(左は14日づけの徳島新聞の記事です)

吉野中学校「今私たちにできること」は、生活の中にある部落差別の現実を、学校で生徒たちがどう自主的に解決していくかというストーリーでした。

藍住東中学校「青空」は、東京から大阪に転校してきた同級生の言葉づかい(方言)に対するいじめを、中学生自身が解決していくというストーリーでした。

石井中学校「直人と獅子舞」は、生きがいを見つ

けられない中学生が、地元で獅子舞を継承していくおじさんたちと出会い、故郷のあたたかさや良さを肌で感じ、力強く生きていこうとするストーリーでした。

昨年、今年と演劇交流会に参加してきて思うのですが、それぞれにもしろさがあり、見ていて「ハッ！」

差別に苦しむ心表現

石井で中学生が演劇交流会 人権意識高める

人権劇に取り組んでいる藍住東、板野、吉野、石井の各中学校が成果を発表し合う中部ブロック中学校演劇交流会(同連営委員会主催)が十三日、石井町石井の町中央公民館であった。

五百十人が参加。石井(五をはじめ十八人の三)中が上演した「直人と獅子舞」は、同和地区出身の直人が、地元の獅子舞に取り組むことで古里を誇りに思うようになり、人間的に成長する物語。直人役の久保早哉香さん

「直人と獅子舞」を演じる石井中学校の生徒(石井町中央公民館)



会は、人権意識の高揚と演劇に取り組む学校の交流促進を目的に、昨年から開かれている。

とさせられるんですね。今まであまり気づいてなかったことが、すごく新鮮^{しんせん}に感じられるんです。「アッ、そうか！」っていう感じでね。演じたり、劇にたずさわっているみんなも、おそらく同じ事を感じているんじゃないかな。その場にいるだけで、新たな発見^{きかく}があったり、勉強^{きんぎん}になったり、自然に自分が高まっているように思えるんですね。この企画に参加して、本当によかったと思います。

他にもたくさんの学校で、さまざまな問題をテーマにした劇が取り組まれていると思います。そんな学校がもっともっと参加できるようになると、ステキだろうな一っと思っています。

さて、我が板中は「SEASONS II」という劇を人権部の協力により行っているわけですが、みなさんにも見ていただいたように、劇に映像^{えいさう}を加えるという演出^{えんしゅつ}を行っています。私のねらいとして、「10代・20代の若者が『見てみたい!』と思えるような部落問題を扱った劇をしたい」というのがあります。

京都シネメセナ第2回作品

アイ・ラヴ・フレンズ

美しい古都・京都を舞台に、
女性写真家が撮る、ひと、まち、自然の姿…
STORY



ろう者のカメラマン美樹は夫を亡くし、息子の優太、義妹の遙と3人暮らし。歴史情緒あふれる古都の街並や、そこに生きる温かな人間の姿を印刷紙に記録しつつけている。ある日、美樹は、交通事故で子どもを死なせ、罪の意識にさいなまれている青年・柴田と偶然出会う。悲しい記憶が宿る場所には、いつの頃からか桜草が美しく咲き乱れるようになっていた。繰り返し咲く桜草の花々は、大切な人を失い、傷ついた人々の心を優しく癒していく。

事故を起こして以来、殻に閉じこもり、人との関わり合いを避けようとする柴田だが、不思議な力によって美樹との距離は縮まっていく…。それと同時に、優太と柴田の間には、ほのかな友情が芽生え始めている。そんな時、美樹は柴田が勤める造園会社の社長から、彼の拭い去れない過去について聞かされる。消す事が出来ない記憶に苦しみつづける彼をなんとか救いたいと、美樹は柴田を励ますためにある方法を思いつくのだが…。

INTRODUCTION

『アイ・ラヴ・フレンズ』は、99年・秋に公開され、“ろう者と聴者が共につくる映画”として大きな成功を収めた『アイ・ラヴ・ユー』の流れを受け継ぐ作品である。本作は、京都から新たな映画文化を発信するため、京都市が製作費を助成する事業・京都シネメセナの第2回助成作品として製作された。監督は、『遥かなる甲子園』、『GAMA〜月桃の花』等、社会的な作品を数多く手がけ、『アイ・ラヴ・ユー』で、笑いと涙の物語の中にろう者の姿を描き、高い評価を受けた大澤豊。ヒロインには、前回、国民的な注目を集めた忍足亜希子が、より幅広い表現力で活動的な現代の女性を演じている。共演に、若手俳優の先頭に立ち、映画・テレビ・舞台上で多彩な活躍を見せる萩原聖人。『渡る世間は鬼ばかり』のレギュラーでもお馴染みの藤田朋子。そして、日本の名優として名高い田村高廣が顔を揃え、ドラマを感動的に盛り上げる。



「アイ・ラヴ・フレンズ」

30日 徳島市内で特別試写会

ろう者の女性カメラマンと経営する
ンと周囲の人々の心の交 美樹(忍
流を描いた「アイ・ラヴ 足)。カメ
・フレンズ」(大沢豊 ラマンとし
督)の特別試写会が、三 て京都を撮
十日午後六時四十五分か り続けるう
ら徳島市蔵本町二のアタ ち、造園技
ツク平和で開かれる。 師の柴田
映画は「アイ・ラヴ・ (萩原聖
ユ一」(一九九九年、大 人)と出会
沢豊・米内山明宏監督) う。やが
に続く日本初のろう女優 て、柴田が
・忍足亜希子さん主演の 八年前に起
第二弾。同映画の上映を こした交通
進める会(岡徹郎会長) 事故で子供
と徳島映画センター(四 を死なせて
宮洋右代表)が十一月か しまい、苦
ら来年一月にかけて県内 しんでいる
四力所を巡回上映するの ことを知っ
に先立ち、試写会に五十 た美樹は、
人を無料招待する。 柴田を励ま
一人息子の成長を支え そつとする
に、亡夫が残した写真館 が...。
を義妹の遙(藤田朋子) 京都市が

舞台あいさつに来県



ろう女優・忍足さん主演の第2弾「アイ・ラヴ・フレンズ」

50人を無料招待

一億円を助成する京都シ
ネメセナの第二回作品。
試写会では忍足さんの舞
台あいさつもある。

巡回上映の日程は▽

希望者は二十一日(必
着)までに、はがきに住
から十四日まで▽阿南市
所、氏名、電話番号を書
き、〒770-0003
徳島市北田宮2-6-1
37、徳島映画センター内
「アイ・ラヴ・フレンズ
試写会」係へ。応募多数
の場合は抽選。

◇

希望者は二十一日(必
着)までに、はがきに住
から十四日まで▽阿南市
所、氏名、電話番号を書
き、〒770-0003
徳島市北田宮2-6-1
37、徳島映画センター内
「アイ・ラヴ・フレンズ
試写会」係へ。応募多数
の場合は抽選。

数年前、マンガでもテレビでも、「聴覚障
害」を扱い、手話が広まった時期がありまし
た。みなさんも記憶に新しいと思います。ト
レンディードラマとしてテレビ画面に出てき
たわけですね。それをきっかけとして、「聴

覚障害」をもつ人々への理解は深まってきました。生活面でも、「障害」者が対応できるよ
うな「作り」がずいぶんできてきたように思えます。携帯電話のメールやバイブレーション
機能なんかもその一つですね。私も手話に関係する者として、その時は本当に喜んでいまし
た。それと同時に、メディア(テレビ・ラジオ・新聞・インターネットなど)のすごさも思い
知りました。メディアを通してさまざまな社会問題を広め、知ってもらうことが大変有効だ
ということであらためて感じたのです。

では、部落問題についてメディアはどうでしょうか。学校教育の場では結構学習が進めら
れていますが、メディアを使つての有効な啓発は、残念ながらまだまだのような気がします。

映画やビデオも結構数多く出ているのですが、私から言わせれば、手話を扱った 트렌ディードラマのような、若者が「見てみたい！」と思えるようなドラマがあってもいいと思うんですね。実はそんな意味を込めて、「SEASONS」シリーズは作られているんです。

2年前、「アイ・ラヴ・ユー」という映画が制作・全国上映されました。私自身この作品に強く共^{きょうかん}感し、一昨年度末の「3年生を送る会」で上映してもらうよう、映画センターに頼^{たの}み込んで、全校生徒で見ることができました。今の3年生は覚えてるんじゃないかな。

「その流れを受け継ぐ作品ができる」との情報が昨年末から入っていたのですが、今日(17日)の徳島新聞に「アイ・ラヴ・フレンズ」の特別試写会^{ししゃかい}の記事が出ていました。待ちに待っていた情報です。(左は17日づけの徳島新聞の記事です)

手話はある程度は根づきましたが、一時的な流行^{はや}りのようになっていることも否^{いな}めません。あらためて「アイ・ラヴ・フレンズ」を通じて、「障害」者のいる当たり前の社会について深く考えてみたいと思います。みなさんもぜひ見に行ってみてください。



■昨日、1年生が「自分以下を求める心」という資料で全体学習を行いました。残念ながら私は出張^{しゅつちやう}で見られなかったのですが、割とマイクを持ってしゃべっていたと聞きました。すごいですね！まずはしゃべること！それが当たり前になることが一番ですから、大成功だったんじゃないでしょうか。今回がんばれた人も、がんばりきれなかった人も、また次の機会にがんばってみましょう！今回の感想があれば、また次号で掲載^{けいざい}したいと思います。お楽しみに！ ■3年生のみなさんは、今週末「進路を考える集い」がありますね。卒業生がたくさん来てくれますから、しっかり聞いて、質問して、高校のことを少しでも知ってくださいね。そして、「なぜ進学・就職するのか？」という問いに対する自分なりの答えを、ぜひもっておいてください。また、来週には実力テストもありますから、引き続き勉強もがんばっておきましょうね！ ■来週は中間テストと郡新人戦があります。勉強の秋。スポーツの秋。今、自分にできることをしっかりとがんばり、充実した一日一日をおくりましょう！

10月17日(水)～20日(土) 2年生修学旅行

- 10月17日(水)～20日(土) 2年生修学旅行
- 18日(木)・19日(金)・21日(日) 第52回徳島県同和教育研究大会(終日;徳島市内)
- 20日(土) 3年生進路を考える集い(午前中;体育館)
- 23日(火)・24日(水) 中間テスト
- 26日(金) 3年生実力テスト(1・2年生臨休)
- 26日(金)～28日(日) 板野郡秋季新人大会
- 31日(水) 文部科学省指定人権・同和教育研究大会(終日;阿波中学校)
- 11月4日(日) 東公会堂祭り(終日;東公会堂)
- 7日(水) 第31回徳島県中学校同和教育研究大会(終日;鳴門中学校)
- 8日(木) 第46回板野郡同和教育研究大会(終日;土成中学校)

9日(金) 3年生実力テスト

12日(月) 板野町学校同和教育研究会授業研究会・保護者参観(午後;板野中学校)

13日(火) 3年生・3年B組全体学習(午後;体育館)